

平成30年度補助系統別事業評価票(ゆめころん赤ルート線)

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
ゆめころん赤ルート	武豊町	レズクル	武豊町役場～イオン半田店～武豊町役場	11.0 km	11 回	半田市
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)	模式図
<p><接続する系統></p> <p>名古屋鉄道河和線 東海旅客鉄道武豊線</p> <p><接続される系統></p> <p>武豊町コミュニティバス(ゆめころん青ルート) 武豊町乗合タクシー老町田ルート、平井畑・祠峯ルート、上ケルルート、上山ルート、青木ヶ丘ルート、桜ヶ丘ルート、やすらぎ墓園・原田ルート、長峰・大屋敷ルート、東大高・白山ルート</p>	

2. H30年度の運行状況

事業実施の適切性		評価の基準	《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由		年間利用者数【人】			33,803	38,162	40,655
A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		平均乗車密度(実績)			2.8	3.3	4.8
			輸送量(実績)			30.8	36.3	51.8
			収支率(実績)				29.2%	28.0%

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	37,100	<p>継続的な事業実施により町民の認知度が増加した。特に武豊町コミュニティバス利用促進友の会と協力して実施した高齢者が集まる憩いのサロンでの無料乗車券の配布や乗車体験などの利用促進事業により利用者の増加につながったため、目標を達成することができた。</p>
	結果	40,655	
	特記事項		<p>市町村名: 武豊町</p> <p>継続的な事業実施により町民の認知度が増加した。特に武豊町コミュニティバス利用促進友の会と協力して実施した高齢者が集まる憩いのサロンでの無料乗車券の配布や乗車体験などの利用促進事業により利用者の増加につながったため、目標を達成することができた。</p>
評価の基準		市町村の所見、理由分析、認識(□)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A → 年間目標利用者数を達成できた場合		市町村名: 半田市	市町村名:
B → 年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の半数以上の利用があった場合		武豊町のコミュニティバスが半田市内の「イオン半田店」に乗り入れていることで、市南部を中心とした、商業施設等への効果があると推測している。	
C → 年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合		また、市南部の住民が、武豊町内にある町民会館などの公共施設への移手段としても利用している。	

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	411 人/月	市町村名: 武豊町	市町村名: 半田市	市町村名:
全利用者に占める率(△)	12.1 %	路線全体の利用者の1割以上が半田市の商業施設への乗り入れを行っている。町民の半田市への利用ニーズの確認及び半田市の交通網への接続を目的に31年度より青山駅への乗入を行う。	交通上の問題もなく、安全に運行しており、利用者も多いため、引き続き運行を続けてほしい。また、H30.10から運行が始まった市のコミュニティバスとの連携も今後、おいおい期待できる。	
特記事項	H29.10・H30.9の「イオン半田店」停留所の降車数	町民の半田市への利用ニーズの確認及び半田市の交通網への接続を目的に31年度より青山駅への乗入を行う。		

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
停留所別利用者実績を見ると、名鉄知多武豊駅での乗降者の合計が全体の17.9%と多く、駅利用ニーズが高いことがわかる。半田市の道路整備に伴い走行時間が短縮されたことから31年度より青山駅への乗入を開始し、移動ニーズへの対応を行う。	停留所別利用者実績を見ると、名鉄知多武豊駅での乗降者の合計が全体の17.9%と多く、駅利用ニーズが高いことがわかる。半田市の道路整備に伴い走行時間が短縮されたことから31年度より青山駅への乗入を開始し、移動ニーズへの対応を行う。

3. H30年度の取組み状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
A	事業評価を踏まえた取組	年3回地域公共交通会議を開催し、関係者及び住民からの意見の聴取に努めた。また、半田市との連絡を密に行い、停留所位置や時間調整等を行い、広域な交通網の形成を行った。	市町村名： 武豊町	市町村名： 半田市	市町村名：
改善点とした事項(△)		年3回地域公共交通会議を開催し、関係者及び住民からの意見の聴取に努めた。また、半田市との連絡を密に行い、停留所位置や時間調整等を行い、広域な交通網の形成を行った。	武豊町の開催する地域公共交通会議の内容等の報告を受けるなか、本市の新たな公共交通体系との連携についても検討した。		
関係者の連携等(△□)	その他の取組	豊田市で行われた日本モビリティマネジメント会議において本町のバス事業をパネル展示で発表を行った。	豊田市で行われた日本モビリティマネジメント会議において本町のバス事業をパネル展示で発表を行った。	平成30年10月からのコミュニティバス等の実証運行に向け、新たな公共交通体系の構築に合わせ、ゆめころんとの連携についても協議した。	
武豊町コミュニティバス利用促進友の会と協力した認知度向上及び利用促進事業の展開を実施した。					

4. 今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
① 目標の達成状況に関する課題 ・引き続き利用促進事業を実施。 ② 次期計画作成に向けた検討 ・形成計画(終期平成33年度)の次期計画の作成に向けて、バス車両台数の検討を含めた交通網の整備を財政投入面を含めて考える必要がある。	市町村名： 武豊町 ① 目標の達成状況に関する課題 ・引き続き利用促進事業を実施。 ② 次期計画作成に向けた検討 ・形成計画(終期平成33年度)の次期計画の作成に向けて、バス車両台数の検討を含めた交通網の整備を財政投入面を含めて考える必要がある。	市町村名： 半田市 イオン半田店周辺は交通量が多いため、引き続き遅延や事故等トラブルがないよう指導を求める。 本市において平成30年10月から実証運行を予定しているバス路線との乗り継ぎや相互啓発について検討することが必要。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に念入りに課題を探すこと。

5. 今後の取組

課題に対応した取り組み、その他の利便性の向上、利用促進の取り組み				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
H31年度、H32年度に行う取組	① 住民主体の利用者増に向けた検討 ・利用促進友の会の協力を得ながら、利用促進活動の継続及び次期計画における交通網の検討を行う。 ② 維持課題の対応 ・事業費が拡大しないよう事業者選定に留意する。	市町村名： 武豊町 ① 住民主体の利用者増に向けた検討 ・友の会の協力を得ながら、利用促進活動及び次期交通網の検討を行う。 ② 維持課題の対応 ・事業費が拡大しないよう事業者選定に留意する。	市町村名： 半田市 本市において平成30年10月から実証運行を予定しているバス路線との乗り継ぎについて協議検討し、利用促進を図る。また、啓発活動や表示物について、相互連携を図る。	市町村名：
中、長期的な取組	平成32年度以降にプールの完成や大型公園の整備に加え、名鉄知多武豊駅東口で大幅な区画整理があるため、それに合わせたルート再編等を検討する必要がある。	平成32年度以降にプールの完成や大型公園の整備に加え、名鉄知多武豊駅東口で大幅な区画整理があるため、それに合わせたルート再編等を検討する必要がある。	自治体間での利用促進事業の協力体制を整えていきたい。	

注. 評価にB、Cがある系統(運営主体以外にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に詳しく記載すること。

注. 予算の都合等から明言ができないときは、「〇〇の制約があるが(〇〇の検討を要するが)〇〇の取り組みを行っていききたいと考えている」等や「〇〇の取り組み(詳細は未定であるが、例えば〇〇のような取り組み)を行っていききたいと考えている」等と記載すること。

6. 早期に利用状況を改善するために行う取組(C又は輸送量15人未満の場合)

運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
	市町村名：	市町村名：	市町村名：

注. 緊急に実施すべきことで、実施できそうなことを記載する。

通信欄 (この欄は、関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください